

## 平成 23 年 03 月 07 日 「ウサヒが、まさかの国際会議」

掲載日:2011 年 3 月 7 日

### 平成 23 年 03 月 07 日 「ウサヒが、まさかの国際会議」

2 月 27 日(日曜日)のことなのですが

中の人山形市にある東北芸術工科大学にいました。

以前に日記でも紹介した第 5 回サステナブルデザイン国際会議に出席するためです。



講演会には 400 人以上も人が集まっていて、関心の高さにびっくり。

ちなみにサステナブルデザインってなんのことかわかりますか？

いつもはなかなか耳にしない言葉ですよ。

「サステナブルデザイン」とは、

「環境に配慮し、人類が生きながらえるためのデザイン」を意味します。

噛み砕いて云うなら

化石燃料に頼り過ぎない生活スタイルの提案とか

輸入に頼りすぎず国の中で利益を循環させることで

日本のお仕事を守る仕組みなどといった

新しいルールや仕組みを考案する(デザインする)会議でした。

デザインっていうと、どうしてもモノを作ることだけのように感じてしまっていますが

こういった仕組みづくりも立派なデザインのひとつです。

で、今回のテーマは「ローカル・サステナブル・コミュニティ」って

いうものだったんですが、

地方で新しい価値観に基づいた活動の場を作っている人たちが

世界の各地からゲストとして呼ばれる中

朝日町からは

安藤竜二さん(ハチ蜜の森キャンドル)と

佐竹勝男さん(上郷花畑組合)が、

発表者として招待されたのです。



海外からもゲストが来ている中で行なわれた打合せ。

2人がどういう発表をしたのかというと

まず安藤さん。



安藤さんは、蜜ろうそく製造を生業にした経緯や

製作・普及活動、朝日町エコミュージアム協会との連携などについて

蜜ろうそくを通じて森と人を結ぶ仕事への思いをこめながら発表されました。

「灯すためのデザイン」に徹していること、地元の材料へのこだわりなどが

高く評価されていました。

灯すためのデザインは、地域の新しい活動の火種となるべく

新しい試みを先陣を切って行なっていく。火種になる活動のこと。

次に佐竹さん。



佐竹さんは、代々受け継いで来た貴重な棚田を活かし

上郷花畑組合の仲間とともに廃校を拠点に農産物を加工、

それらの販売を通じて仙台市民と交流していることを発表されました。

棚田や段々畑の保全は世界的に見ても課題になってるそうで、

( 僕も会議に参加して初めて知りましたが )

その活動に真っ向から取り組んでいることなどが高く評価されていました。

会合が終わった後

国際会議をとりおこなった事務局の方からメッセージをいただき

今回の会議で、朝日町は、2人の活動を含めて

まさしくローカル・サステナブル・コミュニティとして

広く世界に認められた一日でしたよ。

これからもがんばってください。

とメッセージをいただきました。

朝日町の中で起こっている活動に注目してくださっている人たちが

確かにいることを実感する会議でした。

町に住む者としてこの期待に全力で応えられたらと思います。

(まぁ、ウサギですけど)



ちなみにこんな紹介ボードも作りました。

僕は今回、サポート役での出席でしたが

次はちょっと不思議な地域おこし活動として、この会議に参加できればいいなと考えています。

その時はもちろん、ウサヒのちょっとひねくれた目線から

世界各国の先生たちにひとつ、ふたこと大胆な提案をしてきますね。

サステナブルデザイン国際会議の報告は以上です。

安藤さん、佐竹さんお疲れ様でした。